

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自己と他者を大切にできる豊かな感性を育て、確かな学力と主体的に自己実現・社会貢献できる生徒を育む

- 1 豊かでたくましい人間性を育み人権意識を絶えず見つめ直す生徒・教職員の育成
- 2 学びを人生や社会に活かす「学びに向かう力・人間性等」を醸成できる生徒・教職員の育成
- 3 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、一人ひとりに応じた学びと支援の充実

2 中期的目標

- 1 安全で安心な学校生活を送れる学校づくり（生徒相互が気持ちを伝え合える環境と場所、人権意識をもち併せた生徒・教職員の育成）
 - (1) 生徒相互にとって安全で安心な『**学びの場**』づくり《各準備室等の見直しと居場所創りの施設を含む学校環境整備の充実》
 - ア 基本的なコミュニケーションの取り方と対話のある深い授業実践、体験的な行事等を通じ育成。大阪府総合学科研究発表大会への取り組み
 - イ 危機管理体制（防災計画）の点検・見直し。緊急事態発生時の円滑な対応《「教職員防災必携」携帯》・施設の老朽化対応《修理・改修・新規》
 - (2) 基本的な生活習慣の確立と教職員個々の意識改革 《働き方改革の取り組み → 全校一斉退勤日・学校閉庁日等・ノークラブデー等の推進》
 - ア 基本的な生活習慣の確立のため生徒・保護者・教職員との主体的な連携（学び・育ちの原点・食育をベースにした行事等の協働）
 - イ 生徒の健康意識を涵養するため、学校生活全般通して保健・安全・衛生管理の指導充実（食物アレルギー、熱中症、感染症等、食中毒の予防）
 - (3) 規範意識の醸成と個々の生徒のニーズに応じた支援体制 《生徒に向き合う時間確保…定例会議等・役割分担の見直し検討》
 - ア 「規範意識の醸成」に繋がるよう生徒の主体的な対話等を活かし、学校運営協議会の意見を実現。必要に応じルール等の見直し・改善
 - イ 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進と研修、支援学校との「交流及び共同学習」の機会の充実
 - ウ 教育相談・人権推進委員の体制（道徳教育推進教師を中心とした仕組み）校内研修の充実《将来構想への取り組み、校内体制の再構築》
- 2 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実《自己有用感を生徒に伝え、実感させる機会の充実》
 - (1) 生徒会活動や部活動・行事等を中心とした地域との協働
 - ア 体育祭や文化祭などの実行委員会等は、生徒の意見を採り入れ、主体的な活動に改革する。生徒会・実行委員会等を生徒中心に運営
 - イ ボランティアや地域との連携を図る活動の充実（はつがの祭りへのSL運行などボランティア）
 - ウ 体験的な行事、情操教育への啓発を生徒会活動、クラブ活動を中心に活性化を図る
 - (2) 3年間を見通したキャリア教育の推進（「働くことの意義」を醸成し、自己の進路を主体的に決定する力を育てる）
 - ア 職業観・勤労観を養い将来の自分の生き方について、外部人材等の活用を図り充実
 - イ 教科学習を基本に「産業社会と人間」「総合的な探求の時間」体験的な行事など、あらゆる教育活動を生徒の『**気づきの場**』に繋げる
 - ウ 未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等、生きて働く『**知識・技能**』の習得。情報編集力を活用し学びに向かうチカラの育成
 - エ 進路希望に応じた適切な情報を提供し、適正検査等を利用。自己の適性能力を発見（進路決定率 令和4年度 94.4%以上）
《平成29年度 80.1%、平成30年度 79.6%、令和元年度 78.5%》
- 3 エンパワメントスクール【ES】完成年度による横断的な繋がり《-ヤング・ミドルリーダーの学校経営参画と生徒の学びと育ちを支援・保障-》
 - (1) 「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践を通じ「学びに向かう力・人間性等」を中心に育成
 - ア 「わかる授業」を大切に、生徒が「できた。わかった。もっとできる」授業の実践に、観点別学習状況・評価を組み込み、自己肯定感を育む
 - イ 「産業社会と人間」「総合的な探求の時間」体験的な行事などの活用。「チームいずそう」による『**実践の場**』の充実・発展
 - ウ 生徒の学びと育ちを支援に繋げ「進級・卒業」の取組や追認補講等の制度の検証・内規等の見直しを実施。
 - (2) 学校広報活動や研究授業等の充実を図る《リーフレット等・中学校訪問を含め活動の展開を再構築》
 - ア 公開授業週間などの活用と保護者が参観できる日程の精査（土曜日の活用など）を構築《多様な学びを可能にする授業研究協議の充実》
 - イ 様々な授業手法について研鑽し、先駆的に取り組んでいる学校・イベント等の見学を実施。その情報を共有しESの系列等に反映・充実
 - (3) モジュール授業やエンパワメントタイム教材の検討と新たなWebページによる情報発信を共有し、生徒の満足度に繋がる展開を進める
 - ア ES全体の情報共有とモジュール授業等の効果検証を実施。個々の生徒に興味・関心ある教材の提供
 - イ Webページの情報発信では写真等で見える化を中心に計画。また、既存の電子黒板等のICT機器を有効に活用

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>学校全体の欠席数は約1000日、遅刻数は約1500日と減少し、学校への定着は出来てきている。コロナ禍の影響か懲戒件数は大幅に増加（12月段階）の反面、生徒が校則を守っていると肯定的な回答が82.2%で、規範意識の醸成アップだが、教職員は校則が守れているとの回答が55%と乖離があり、次は生徒指導部のルールの見直しが課題である。学校での進路ミュージカルの鑑賞態度も良くなっている。今後は、より良い選択を、生徒と対話を通じ主体的に計画する方向へブレークスルーする時期に漸進している実感がある。その実証として、エンパワメントスクールに来てよかったとの回答は62.1%と、改編後では最も高かった。さらに「項目3」は、家の人が学校への理解、教育情報の提供の努力、地域への周知等で、生徒・保護者・教職員の全てがアップしており、学校ホームページ更新、ライデンメールの地道な広報活動の着実な成果と判断している。</p>	<p>第1回：令和2年5月29日（金）書面開催 ・コロナ禍の影響で臨時休校に対する学びの保障について、特にオンライン授業や校内ICT化に伴うWi-Fi環境の整備の質問が多かった。また、エンパワメントスクール完成年度なので、3年生の進路指導に十分な配慮するよう示唆いただいた。</p> <p>第2回：令和2年11月6日（金） ・求人数は昨年度より40件減少の中、一次内定率は70.4%である。看護系専門学校希望者が増加している。オンライン授業においても学習支援クラウドサービスオンデマンドの動画配信サービスの活用を試み、グループウェアにおいて試行報告し、評価を頂いた。</p> <p>第3回：令和3年1月29日（金） ・学校Webページの活用は危機管理に効果的。学校教育自己診断の教育相談体制の整備と全ての教員に相談できる環境づくりに期待する。また、先生は子どもの評価が適切であるとの項目がいい。地域の小中高の縦に繋げる育成は今後も継続したい。校則も今のニーズに合ったように変更希望あり。SDGsの環境問題、ICT活用も積極的に実施を期待。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 安全で安心な学校生活を送れる学校づくり	<p>(1) 安全で安心な学びの場 ア 基本的なコミュニケーション イ 危機管理体制、緊急事態発生時の対応</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の確立と教職員の意識 ア 登下校時の対話を通じ「あいさつ運動」 イ 生徒の健康意識</p> <p>(3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制 ア 生徒に寄り添うための対話重視 イ 「ともに学び、ともに育つ」教育推進 ウ 教育相談・人権推進委員会の体制</p>	<p>(1) 生徒相互にとって安全で安心な生活できる場と人間関係の育成・学校環境整備 ア 主体的な対話を育むため外部人材等を活用。体験的な学習・行事・環境整備等で育成 イ 学校連絡等の体制見直しの確認と徹底 ・安全衛生講習会・学校保健委員会等の実施</p> <p>(2) 基本的な生活習慣確立・働き方等への取組 ア 基本的な「あいさつ運動」の定着 イ 健康診断で尿検査の受診率を維持 食育等の取組み</p> <p>(3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制 ア 規範意識の醸成をめざして生徒・教職員との対話を重視、生徒のニーズを踏まえたルール等の見直し ・保護者懇談などにより保護者と連携を深め、寄り添い、粘り強く指導 イ 「ともに学び、ともに育つ」教育と交流及び共同学習の充実 ウ 教育相談委員会等と SC/SSW/CC の連携をさらに深め、研修を充実。また、定例会議等を見直し、教職員の負担軽減を図る</p>	<p>(1) 安全・安心の場の居場所（図書館）創り・自習室整備・老朽施設の改修 ア コグトレ・SC/SSW/CC 等を活用 イ 学校避難訓練以外にもコロナ関連等で学校 Web ページの連絡体制の確認 ・安全衛生講習会（R1年度 12人）・学校保健委員会等の参加者</p> <p>(2) 生活習慣確立・働き方改革等で全校一斉退勤日増加と長期休暇の活用 ア 登下校時のあいさつ運動を毎日実施（R1年度 143日） イ 受診率の維持（R1年度 99.5%） 食育等への関心・実習等の充実</p> <p>(3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制の充実 ア 懲戒件数の10%減少とルール（R1年度 57件） ・のべ欠席日数の減少（R1年度 8473日） ・遅刻数の減少（R1年度 17430） イ 支援教育関連の研修を随時に実施 ウ ケース会議充実と外部人材の組織体制の充実を図る 校内研修や伝達講習を実施する</p>	<p>(1) 安全で安心の場としての居場所 自習室整備/図書館ソファ改修（○） ア 朝学習で「コグトレ」50回実施（◎） イ コロナ禍の連絡も含め緊急メール等、学校 Web ページを78回更新（◎） 安全衛生講習会はコロナ禍で中止（－） 学校保健委員会書面開催で全員参加（○）</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の確立 ア 臨時休校、分散登校など不定期に稼業日は毎日実施（○） イ 尿検査受診率維持（R2年度 100%）（○）</p> <p>(3) 規範意識醸成と生徒への支援体制 ア 懲戒件数の昨年度比較は約65%増加。コロナ禍の影響が大きい。自己診断の生徒と教職員のルールを守る所で数値に開きが大きいので、内規等検討（R2年度 94件）（△） ・のべ欠席日数は全学年約1000日減少（R2年度 5178日）（◎） ・遅刻数の減少（R2年度 10921日）（◎） イ オンラインで教育研修実施（○） 誰一人取り残さない学校/新しい発想 ウ 外部人材体制《SC/SSW/CC》の活用（R2年度 ケース会議 20回）（○）</p>
2 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実	<p>(1) 生徒会活動・部活動地域との協働 ア 生徒の主体的な活動 イ ボランティア活動の充実 ウ 体験的行事・情操教育</p> <p>(2) 3年間のキャリア教育の推進 ア 職業観・勤労観 イ 生徒の「気づきの場」の機会 ウ 未知の状況に対応できる判断力等、学びに向かうチカラの育成 エ 進路希望に応じた情報、自己の能力発見</p>	<p>(1) 生徒会活動・行事等を中心に地域と協働 ア 体育祭・文化祭の生徒会役員の当日の運営や準備期間で、教員と協力しながら活躍の機会を増やす。行事日数の見直し イ ボランティアや地域との連携 ウ 生徒会と協力し、クラブ紹介や体験入部に取組み、体験・情操教育の導入</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育の推進 ア 地元企業と協力やキャリアコーディネーター（CC）の外部人材の有効活用 イ 外部講師によるガイダンスや講演を活用し自己の進路に対する啓発を行う ・資格取得への参加を促し、進路に向けた動機付けを行う ウ コミュニケーション力・キャリア意識を促す情報編集力の育成 エ 場面に応じた適切な言葉を選択できるよう寄り添い、粘り強く指導を行う。</p>	<p>(1) 生徒会活動、行事等で地域と協働 ア 学校教育自己診断の「将来の進路・生き方の機会」の向上（R1年度 生徒 61.4%、教職員 70.8%） イ ミニ SL の運行等の地域交流 ・地域小中学校等の連携 ウ クラブ加入率を3%上昇（R1年度 96人 17.9%）</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育推進 ア CC との学年団等の連携を継続（R1年度 249回） イ 学校斡旋就職希望者の合格率5%増（R1年度 70%） ・資格取得者の維持～5%増（R1年度 46人） ウ コミュニケーション力の養成 エ 3年生の就職面接練習参加率（R1年度 100%） 進路決定率（R1年度 78.5%）</p>	<p>(1) 生徒会活動、行事等で地域と協働 ア 「将来の進路・生き方の機会」（△）、コロナ禍の中保護者の肯定がアップ（R2年度 生徒 60.7%、教職員 63.2%） イ ミニ SL の運行等の地域交流中止 ・地域小中学校等連携は延期（－） ウ 生徒の主体的なクラブを検討（R2年度 116人 20.1%）（○）</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育 ア CC との学年団等の連携 178回（△） イ 学校斡旋就職希望者の合格率（R2年度 71.1%）（△） ・資格取得者の維持（R2年度 20人）（△） ウ SST 活用面接でコミュニケーション力の養成（○） エ 3年生の就職面接練習参加率全員参加（R2年度 100%）（◎） 進路決定率 R2年度 78.4%（△）</p>

府立和泉総合高等学校

<p>3 エンパワメントスクール 【ES】完成年度による横断的な繋がりに</p>	<p>(1)「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践 ア「できた。わかった。もっとできる」と感じられる授業 イ 総合学科研究発表大会 (2) 学校広報活動や研究授業の充実 ア 公開授業週間 イ 授業手法研鑽、先駆的な学校・イベント見学 (3) モジュール授業 ア 興味関心ある教材 イ Web・電子黒板</p>	<p>(1)「魅力ある授業」の創造と主体的・対話的な深い学びの実践 ア・ESに対応した研究授業 定期考査・観点別学習等の検証 イ・ES完成年度として横断的な繋がり 各学年団と生徒との信頼関係の構築 「実践の場」である総合学科研究発表大会 (2) 学校広報活動や公開授業の活用 ア・教員相互が授業に関する意見交換 イ・エンパワメントスクールに特化した授業研修、ICTの活用を検討 (3) モジュール授業等の教材の精査 ア・先駆的な教材の本校での活用方法を検討し、新たな授業方法の実践方法を模索する イ・Webページの更新、電子黒板等の有効活用。 新たな学校等の取組みを学ぶ</p>	<p>(1)「魅力ある授業」の創造と実践 ア・研究授業2回。教務内規等の検討 イ・1年次の進級者数向上 (R1年度 188人進級率89.5%) ・学校への楽しさを学校行事の刷新で学校満足度アップ (R1年度 53.8%) ・総合学科研究発表大会へ参加発表 (2) 学校広報活動や公開授業の活用 ア・生徒の授業満足度5%増 (R1年度 56.3%) イ・ICT活用の授業見学や研修を実施 (3) モジュール授業等の教材の精査 ア・教材を活用した授業。検討会の実施2回 イ・学校見学・イベント等の参加を6回以上めざす</p>	<p>(1)「魅力ある授業」の創造と実践 ア・研究授業4回(○)内規見直し(△) イ・1年の進級率は92.4% (R2年度 197人) (◎) ・感染対策を中心に行事の見直し (R2年度 56.0%) (○) ・コロナ禍で総合学科研究発表大会中止(－) (2) 学校広報活動や公開授業の活用 ア・授業満足度(R2年度 52.4%) (△) イ・視聴覚教材を活用した授業見学 ES 国語担当者研修実施 (○) (3) モジュール授業等の教材の精査 ア・BYOD 端末の活用授業を一部実施 学習支援クラウドサービスの対応を 広げる (○) イ・感染防止対策のため、学校見学等は自粛 (－)</p>
--	--	---	--	--